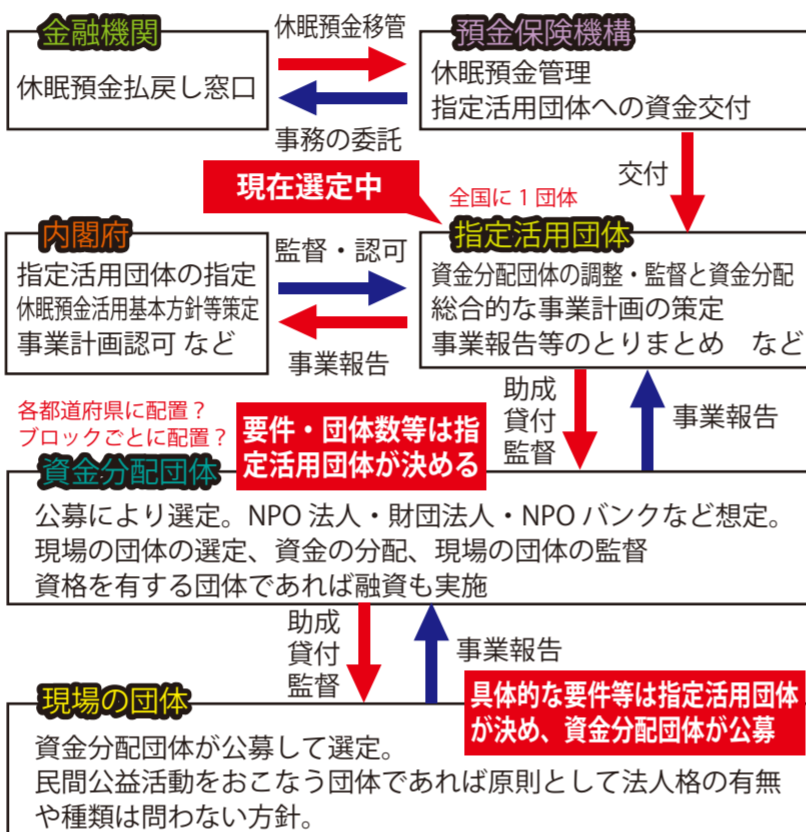


## 休眠預金活用、来年から本格開始～懸念の声も～

わかづく第157号(2017年3月3日付)でご紹介した「休眠預金活用法」。金融機関に預け入れられたまま長期間動きがない預金を公益活動に活用しようという法律で、既に休眠預金活用の中核を担う「指定活用団体」の公募が行われるなど、来年秋ともいわれる初めての事業実施に向けた動きが着々と進められています。しかし、休眠預金活用法の運用に対する懸念の声が、休眠預金を活用する立場にあるNPOの側から出ています。どういったのでしょうか。

### 休眠預金活用の流れ(内閣府資料を参考に作成)



「公平性を期すため」という理由で、どの団体が応募したのかは現在のところ明らかにされていませんが、4、5団体に応募したのではないかとみられています。年内には選考が実施されることになっていますが、本稿執筆時点ではその結果は明らかになっていません。採択された団体は、来年3月までに内閣府から大臣からの指定を受け

正式に指定活用団体となり、4月以降、事業実施が進められることになっています。様々な課題が浮き彫りに法律が成立・施行された時点で概ね歓迎ムードだったNPOをはじめとした休眠預金を「利用する側」の動きですが、今年2月に行われた「休眠預金等交付金に係る資金の活用に関する基本方針」(案)のパブリックコメントが募集された頃から風向きが徐々に変わってきています。もと、休眠預金を原資に資金が交付された事業については、その成果を明示することが原則とされています。基本方針案では、事業成果を「社会的インパクト評価」という方法で測定することを前

提とするという趣旨の記述があります。社会的インパクト評価は内閣府でも研究会が開催されるなど研究が進められていますが、まだ手法は十分に確立されていないという指摘が多数あります。またNPOが携わる領域では、成果を可視化しづらいこと、成果を出すまでに相当な時間を要する案件も少なくありません。そうしたことから、事業成果を可視化しやすい事業ばかりが目立ってしまうのではなか、また短期間では成果が期待できなかったり、成果の可視化が困難だったりする地域課題は置き去りにされてしまっているのではないかと、という懸念の声が急速に高まりました。また、評価を本格的に行うとすると相当な労力と時間、費用がか

かることが想定されます。このことが、組織基盤が盤石な大規模団体に有利で、小規模団体には不利に働くのではないかと、という懸念も生まれました。これらのことから、社会的インパクト評価のみを前提とする事業の評価の是非や、成果の可視化が困難だったり成果を出すまでに時間がかかたりすることが想定される事業への対応、小規模な団体への配慮などを求める声があり、基本方針案には全国から168件のパブリックコメントが提出されました。ところが、今年3月末に開催された内閣府の審議会はわずか8分で終了し、パブリックコメントは一切反映されることがなく基本方針が決定されてしまっています。事業評価、成果の可視化が困難な事業への対応、小規模団体への配慮等の多くは原則として「指定活用団体」が決めること、という方針が維持された形です。

「拙速」が懸念の中心 NPO側にとつては、高い透明性を謳うはずの休眠預金制度へのパブリックコメントがまったく反映されなことで、制度の不透明感と手続きへの不信感が高まる結果となつてしまいました。来年秋の試行実施ありきの

か、このことが、組織基盤が盤石な大規模団体に有利で、小規模団体には不利に働くのではないかと、という懸念も生まれました。これらのことから、社会的インパクト評価のみを前提とする事業の評価の是非や、成果の可視化が困難だったり成果を出すまでに時間がかかたりすることが想定される事業への対応、小規模な団体への配慮などを求める声があり、基本方針案には全国から168件のパブリックコメントが提出されました。ところが、今年3月末に開催された内閣府の審議会はわずか8分で終了し、パブリックコメントは一切反映されることがなく基本方針が決定されてしまっています。事業評価、成果の可視化が困難な事業への対応、小規模団体への配慮等の多くは原則として「指定活用団体」が決めること、という方針が維持された形です。

### 1 貧困をなくそう

## SDGs『貧困をなくそう』の視点から

### 子どもの貧困と地域連携を考えるシンポジウム

12月5日開催・SDGsの視点から「子どもの貧困」問題の地域連携を考えるワークショップより

和歌山において少子高齢化が進むなか、地域社会の未来の担い手である子どもは大切な存在です。その点でも子どもの貧困問題は見逃すことはできません。

このシンポジウムを通して、多様な立場から、子どもの貧困問題を共に考える場をつくりたいと思います。

子ども支援に携わる方や、関心のある方、どんな方でも歓迎です。一緒に子どもの貧困問題について考えてみませんか。

日時：2月9日(土) 13:30～16:00  
場所：T-LABO (和歌山市美園町5-4-2)  
JR和歌山駅すぐ「みその商店街」内  
定員：50名  
参加費：無料

内容：  
●基調講演「子どもの貧困問題の動向・地域連携の必要性について」  
講師：谷口知美さん(和歌山大学教育学部准教授)  
●クロストーク…行政・NPO・国際協力の立場から、子どもの貧困問題などについてお話をうかがいます  
ゲスト：佐藤昌吾さん(橋本市総合政策部・教育福祉連携推進室室長) 荒木博和さん(NPO法人熊野理事長) 中嶋悦子さん(JICA関西和歌山デスク)  
コーディネーター：堀内秀雄(わかやまNPOセンター副理事長・和歌山大学名誉教授)

【参加申し込みについて】  
わかやまNPOセンターまでお知らせください(12月29日～1月6日はお休みです)。  
TEL 073-424-2223 FAX 073-423-8355 E-mail info@wnc.jp  
※本事業は近畿労働金庫「NPOパートナーシップ制度」により実施します。



### みんなでつくる情報板 わかやまイベントボード

- ゆるふわボクシングエクササイズ  
運動不足や体重増加が気になる方にオススメ。難しい動作は行いませんので初めての方も安心です。  
日時 1月8日(火) 19:00～20:00  
場所 和歌山ビッグ愛6階3ポシナルーム  
講師 田名後茜さん  
参加費 1,000円  
問い合わせ・申込み 和歌山ビッグ愛 (073-435-5200)。
- 英語でダンス & ブレイクダンス  
リズムに合わせて英語を「聞く」「話す」ことで自然に英語が身につきます。  
日時 1月12日(土) 10:00～11:00  
場所 和歌山ビッグ愛6階レッスンルーム  
参加費 1,000円(兄弟で参加の場合、1人追加につき500円)  
問い合わせ・申込み 和歌山ビッグ愛 (073-435-5200)。
- 人と自然をつなぐシンポジウム  
和歌山県では、自然と人がより良い関係を築くためにはど